

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590200198		
法人名	株式会社 関西サンガ		
事業所名	ひらたグループホーム翔裕館		
所在地	滋賀県彦根市平田町448-1		
自己評価作成日	平成29年 1月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2590200198-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成29年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「住み慣れた家」生活の場所が変わっても、使い慣れた小物、家具、布団、雰囲気、家族の顔が身近に感じれば自然とそこが落ち着いて過ごせる馴染みの場所になります。環境の変化を最小限にすること。ご利用者様の気持ちに寄り添うこと。ご家族様との関係をとちつなかりを大切にしていきたいことを三本柱と考えています。特に入浴に関しては制限をつくらずに個別に対応しているものの一つです。清潔保持だけでなく、気分転換や精神的な安定、又、職員とご利用者様とが一对一で関わられる大切な時間だと考えています。施設近隣は、季節を感じられる公園や田園が広がる自然豊かな場所であり、ドライブや外出にはもってこいです。又スーパー、飲食店といった場所にも恵まれている為、外食や散歩がてらの買い物も楽しみの一つです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設してからもうすぐ2年を迎えるホームですが、法人の彦根地域の他施設との連携により、備蓄はまとめて確保するなど、協力体制ができています。バリアフリーが充実した建物で、リビングは明るくゆとりがあり、他に広いミーティングルームや家族との談話及び専門家への相談時に利用が可能な個室などがあります。入居者のこれまでの生活が自然に継続できることを大切に思い、日頃から会話を重ね希望を聞くように努めています。職員の小さな気づきを見落とさないように、報告書という正式な書面作成の前に「ヒヤリハットの気づき」を随時メモしておく工夫した結果、転倒が減るなど再発防止に繋がっています。近隣には四季の変化を感じられる場所が多く、パラ・コスモス・チューリップ畑へドライブに出かけたり、イチゴ狩りの予定を一緒にたてたりして、日頃外出をあまり好まれない方も参加したくなるような企画を考え外出支援を進めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が毎日の朝礼にて「基本理念」「基本方針」「品質方針」を唱和しグループホームにて申し送りをおこなっている。毎月の目標を掲げたケアの推進を行い、実践状況の確認、反省と振り返りを行っている。	彦根ひらた翔裕館という複合施設の目指す「感動できる介護」という特徴を基に、グループホームの職員が全員で毎月「言葉かけ。ケアの1つひとつを丁寧に」といった具体的な目標を設定しています。入居者も職員も笑顔で過ごせる暖かい雰囲気大切に日々のケアに取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に積極的参加(文化祭)させていただきました。作品を準備し展示。近隣の保育園や小学校との交流機会に向け進めていく予定。	町内会に加入し、事業所の広報誌を配布し行事を公表しています。地域の避難訓練などに、事業所の代表者が参加したり、文化祭で入居者の貼り絵などの作品を展示して活動を見て頂いています。今後は事業所に訪問して頂けるような取り組みを検討中です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を代表して副施設長が自治会の研修会にて地域のかた向けの認知症講座(日頃関わっている現場より)説明や指導を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の会議を開催し事業所からの利用の状況や取り組みの報告を行い、アドバイスを受け運営に活かしている。施設の催しや地域の行事についても交流できるように意見交換を行っている。	地域包括支援センター職員、民生委員、老人会会長、自治会長等に参加して頂き、事業所の今後の取り組みについてアドバイスを頂いています。入居者・家族の参加はまだ積極的ではないので、会議でもご意見がもらえるよう呼びかけています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員にも参加していただき意見交換、助言をいただき運営に活かしている。	地域包括支援センターの職員を通じて、事業所から行政へ些細な相談も気軽に出来る関係が築かれています。地域包括の方が幾つもの他の運営推進会議に参加しているため、他の事業所の良い取り組みなどの具体的な情報が得られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目的によって利用者の尊厳を損なうか否かが異なりますが、何のためにその方法をとろうとしているのかという介護、ケアの目的に着目して判断し取り組みを行っている。	権利擁護研修や「高齢者虐待と身体拘束排除について」などの研修を受け、参加できなかった職員も研修資料で勉強し、報告書を書くようにして徹底しています。洋服を噛む症状の方が肺炎で入院時にはつなぎ服にて予防していた場合も、退院後は入居者の尊厳を重視したケアで対応できるよう努力しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、虐待防止に努めている。職員が不安なく業務できるように、利用者との関係性やケアに関して、相談しやすい雰囲気意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を実地し、全職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス開始時には重要事項説明書により十分説明を行い、不明な点がないか確認のうえ契約を行っている。介護保険法改正にて料金改定時には文書にて家族に通知し説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の面会頻度が高く、気軽に意見交換を行い、ご家族様の不安や心配を軽減できるように声をかけるようにしている。意見箱設置している	家族の意見は面会時に聞けることが多く、遠方の場合も親戚の方が来られるなど職員との信頼関係が築かれています。誕生日の催しの意向は入居者と相談しご希望に添えるように努めています。意見を頂いた段階で早めに回答し、苦情にまでならないように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議では職員の意見を聞いて、業務の内容や統一したケアができるように検討している。管理者との面談以外に施設長、管理者と三者での面談を行い、職員意見を聞く場がある。	職員の日々の思いや連絡事項を忘れないように、時間を取らずにメモできるように連絡帳を事務所に置き、その内容を基にグループミーティングで共有し、ケアの統一に向けて意見交換を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課を実施している。(一般職・管理職)面談を通じて個々のスキルアップを協議し今後の目標を設定する機会にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がスキルアップを図れるように、研修への参加を推進している。又、資格取得に向けた情報提供も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホーム部会が毎月1回あり、本社にて集まる機会があり、情報交換を行っている。他の事業所見学の機会も検討している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	身体的、精神的な不安、心配を介護記録に残し共有している。担当を決め細やかなところまで気付きができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様の面談では、不安や思いを十分にお聞きし、グループホームでの生活を理解していただけるようにじっくり時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が介護支援相談員という特性を生かし、ニーズを明らかにして、必要なサービスの提案やサービスの紹介等様々な方向から本人らしい生活ができるよう助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「楽しく笑顔あふれる」をポイントに、共に楽しめる。共に笑い合える関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を交えて気楽に話してできる関係作りを心がけています。面会時に近況報告させていただき、ご家族様の思いをお聞きできるよう雰囲気づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族面会や親戚、知人の面会もあり、居室や共用スペースでゆっくりと時間を取っていただくようにしている。利用者の家族がボランティアとして定期的に訪問してくださっています。	昔から利用している散髪店に行き続けている方もいます。高齢になり地域の馴染みの人が減ってくる中、職員の知人、近隣の大学生、お寺の住職等がボランティアとして、コーラス・バルーンアート・法話などで事業所を訪問し、その方が馴染みの町名の方だったりして、新たな関係が築かれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見守りながら、時には職員が間に入り話を取り持つことで、良好な関係が継続するように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方はないが、必要あれば、相談や支援を行う準備ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が話しやすいように一対一になる入浴時、居室、外出時に思いや暮らし方について聞き取るようにしている。思いが聞き出せない場合は家族に情報を得て、本人らしさに近づけるよう心がけている。	意見を言える方が少なく、思いを引き出すのが難しいので、ケアプランの項目を細かくしたり、入浴時など個々の関係がつかれる時に、個人のそれぞれの思いを把握するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での生活スタイル、愛着のあるものをそのまま持ってきていただくよう依頼し、継続性のある生活を心がけている。本人の体調やペースに合わせて生活している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自己決定、自己実現の視点に立った支援を心がけている。買い物や外出、散髪等の希望に添うように実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの目標設定に合わせてケース検討会モニタリングを行っている。状況に大きな変化があった際には、その都度開催している。ケアプラン作成時には家族に説明し同意を得ている。	裁縫の先生をされていた入居者が目が見え難くなり塞ぎがちだったため、白内障の手術を提案し視力が回復することで、言葉が増え会話が増えています。モニタリング表にその方の意向を話し言葉で書くことで、他の職員も課題をより共有できるよう、プランが作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関してはできるだけ詳しく、その前後の様子まで記録に残すように周知している。職員間の情報の共有、ケアの実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに出来る限り合わせている。受診や散髪等。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や買い物、食事、喫茶店等、地域に出ていく機会を大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向に任せている。協力体制は常にさせていただいている。(緊急時の受診付き添い・日々の様子連絡)状況により受診が困難となった場合は往診を提案する。	かかりつけ医への通院の際も職員が通院介助し、連絡事項等を伺って、その後の看護ケアに活かしています。大学病院等家族の承認がある場合は、家族と共に職員も同行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と連携をとり、日々利用者の健康状態や変化を報告して、ケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはアセスメント兼医療連携シートを渡し連携を図る。退院時には退院カンファレンスに参加しサマリーを依頼する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護の方針を入居の契約時に説明し、同意を得ている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意書ももらっています。本部で行われる管理者の部会等に参加し、終末期に向けた支援ができるよう連携体制を整えているところです。	介護度が高い入居者もおられ、今後家族が看取りを希望されてくることもあると考えられます。法人の知識や経験を伝授してもらい、今後対応できるよう取り組んでいかれてははいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを設置、事務所に対応の手順を掲示している。施設内部研修において緊急時の対応についての研修を行い参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練実施。防災委員会も定期的に行っている。地域の方の参加、消防団の方の協力を得る。備蓄用自販機あり	消防署に実施計画書を提出し、指導のもと年2回の消防訓練を行っています。法人グループの昭和元気くらぶ彦根の建物の屋上に食料・飲料水等の備蓄が整い、自家発電が可能です。IH電気器具で非常時にも調理ができます。緊急時には、消防署と施設長に一報が届くよう対策されており、また、同法人の施設は夜間常時5名体制になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助動作が他の利用者に気付かれないように対応を心がけている。	特に排泄に関して、職員間で暗号等を取り決め、他の入居者に気づかれない工夫をしています。接遇に関する研修等を毎年4月に行い、勤続年数を問わず自己の振り返りが行えるよう研修を行っています。日常の実際に見受けられるような場面を想定し、生活の質を高める接遇を目指しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味や嗜好を考慮し言葉かけすることで思いや希望に近づけるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはありますがご本人の体調に合わせて支援を行っている。日々の生活で希望があまり無い状況ですと生活歴よりくみとり、出来る事をサポートし職員が実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類交換支援をさせていただいている。ご本人が選んでいるわけではありませんが、好みの服を着用されています。ご家族様が要望される方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体的能力の問題があり、一緒に取り組む(調理)ことは少ないが、下準備を手伝っていただくことが増えてきました。	業者の食材を購入し、調理・味付けを職員が行っています。季節ごとに入居者の希望を取り入れながら「ちらし寿司・鍋パーティ・鰻」など特別メニューを工夫して取り入れています。おやつはテーブルの上でホットケーキやたこ焼きを作り楽しんで頂いています。	食事風景が少し寂しい印象を受けました。楽しい食事を通じて生活を豊かにすることが大切です。静かにBGMを流し、全ての職員が入居者と同じ食卓を囲み見守ることで、より心地よい環境づくりが実現できるのではないのでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食品食材全般は宅配業者に依頼し、高齢者の栄養バランス、カロリー計算されたものを手作りしている。摂取量、水分量の確認、記録、体調管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態を把握した上で、口腔ケア用品を使用し起床時、毎食後の口腔ケアの促しと介助を行っている。歯科受診にて口腔ケア指導を受ける。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁、失便を減らし、不快の無い排泄への促し、誘導を行っている。個別の排便コントロールにて下剤服用者の状態観察にて、不快感の軽減を図っている。	排泄チェック表により、個々のトイレ使用間隔を把握し、トイレ誘導により失禁が減った方もいます。排便チェック表を別に管理し、下剤服用や牛乳など水分を多めに摂った方には、排便コントロールに気をつけ早めに対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、1日の水分摂取の促し。好みの飲み物で摂取量を把握している。程度な運動も取り入れるよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前10時～午後5時の間に入浴を行っている。ご本人の希望と身体状況を把握し、誘導し入浴していただいている。	入浴は、入居者がゆったり寛げる時間として、特に楽しんで頂きたいという思いが強く、個々の希望に沿って最大限の支援をしています。毎日入りたい方にも希望通り支援し、又日頃あまり話されない方には、1対1の良いコミュニケーションの場として対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態と日中の様子を観察し、状態を見ながら、休息の声かけと促しをさせていただいている。リクライニングチェアを使用し見守りながら休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の把握を行い、看護師の指示のもと介助に入っている。日々誤薬の無いように、声だし確認、他の職員に確認をもらい服薬介助にあたっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望に添った役割、楽しみを企画している。気分転換していただくように近隣の喫茶店にコーヒーを飲みに出かける機会も多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の外出、外食、趣味、娯楽、買い物等その日の天候に合わせて実施している。	外出がお好きな方は、個別で近所の珈琲店に行ったり、買い物や散歩、外食など入居者と話をし希望に沿った場所へ一緒に出掛けています。外出を好まれない方へは、お花を一緒に観ましょうなどと誘い、窓や玄関から外気浴を楽しんでもらうよう工夫しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金の管理をされている方はお一人です。希望にて買い物支援させていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望にて何時でも電話を取り次いでいます。お手紙のやり取りもされてます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の環境整備にて安心して生活していただけるように努めています。空調管理、季節の花をフロアーに飾り季節を感じていただけるように工夫してます。利用者の皆様と毎月の貼り絵を作成し季節感を出しています。	共用空間は広く整頓され、廊下も車イスの移動に十分なスペースがあります。リビングを囲むように事務室やキッチンがあり、お互い表情が見えるよう配置されています。インフルエンザの湿度対策に加湿器の増設を検討中です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士は確立しているように見えます。その中でも職員が間に入り、話を取り持つこともあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が慣れ親しんだ家具や寝具にて環境整備させてもらってます。テレビ、ラジオも自由に使用されておられます。	ベッド・防災カーテン・クーラー以外は入居者が選ばれた家具や机を持ち込まれ、掛けてある洋服と寝具の色合いが似ていたり、入居者の好みや人柄が伝わってくるような設えになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー、廊下の手すりの設置、必要な福祉用具を使用され動きやすい動線ができています。ゆっくりと過ごせるスペースもあり、トイレも分かりやすく張り紙をしています。		